

スクランブル交差 TN 原稿募集！

あなたの参加が会報第3号を作る

会報第3号の原稿を募集いたします。NPO 法人の会員相互の交流と親睦を図る場です。
ふるってのご応募をお待ちいたします。

1. 原稿募集

1) 会報の全体記事構成

記事	執筆標準ページ数	摘要
特集 トンネル技術の伝承に想うこと	A4 1, or 2 ページ	募集記事、指名記事
主張 私の独断と偏見	A4 1, or 2 ページ	募集記事
トンネル知ったかぶり	A4 1, or 2 ページ	募集記事
わが町・わが現場だより	A4 0.5, or 1 ページ	募集記事
社会貢献	A4 0.5, or 1 ページ	募集記事
会員の声	A4 0.5, or 1 ページ	募集記事
賛助会員の広告	A4 0.5, or 1 ページ	募集記事
構成員グラフ、入会の案内、NPOの祝賀会、 マイスター記事等		

【会報の概要】
発行回数：当面年1回
発行時期：平成25年3月発行予定
ページ数：20～30 ページ程度
印刷部数：会員数 + α
会報の色：表紙・目次はカラー、記事は白黒
執筆者：会員は「賛助会員の広告」を除いた全ての記事に投稿できます。
賛助会員は「賛助会員の広告」に投稿できます。

2) 応募の手順と締切

- ①応募の連絡：**平成24年9月28(金)**までに、メールにて各記事担当者に応募の意向をご連絡してください。
- ②原稿の締切：**平成24年11月15日(木)**までに各記事担当者に電子ファイルで送付して下さい。なお、送付の際にはお手数ですが、原稿の容量へのご配慮を御願いたします。

3) 各コーナーの募集原稿の内容

【特集】トンネル技術の伝承に想うこと

内容:

昔から「今の若い者は・・・」、「また始まった先輩の小言が・・・」という会話にもならない思いは、はるか昔の時代からあるようです。最年長の現役組が若いころは、多分に小言と罵声の中で育ったのかもしれませんが。しかし、今は「ほめて育てる」とか「叱りはパワハラ」などと言われ、一方で若い方は今頑張っても先に良いことが見えにくく、昔と比べ素朴に夢や希望が小さくなっているように思えます。

どんな時代でも、進歩があつて、常に前向きに考えられる業界であつて欲しいと思いますが、実際の現場ではいろんな問題を内包しています。このような中、伝えなくてはいけないこと、学ばなければならないことは必ずあるはずで。課題に直面したときのアイデアは、過去の先輩方の積み上げをベースにして、意見交換や交流の中で新しい芽をだすものと思っています。そのような皆さんが日々思われていることを、上から下から横から語って下さい。

※「トンネル技術」とは、トンネルに係わる全ての立場での全ての業務に関することをイメージしています。いわゆる、技術だけにこだわらないでください。

担当: 川端 康夫 yasuo_kawabata@tobishima.co.jp

【主張:私の独断と偏見】

内容: トンネル技術に関する独断と偏見をお聞かせください。「自信が少し無いのだが・・・」と思う方も主張してみませんか。

例)「湧水処理水をそんなにきれいにしようとするの」、「トンネルの主役は覆工か支保工か?」、「ポスト NATM はどんな工法・・・」、「最近の設計や施工法は少し変だ!」、「発注方式はこうあるべき!」等、世の常識を覆す事実や、目から鱗の現象を記事としてお待ちしております。

以上は例ですので、これに拘らなくても皆様がテーマを設定して頂いて結構です。

担当: 日根 幸雄: hine-yu@ej-hds.co.jp

【コラム:トンネル知ったかぶり】

内容: トンネルと縁の遠い方々を対象とした解説記事です。我々がトンネルの仕事が出来るのも周囲の支えがあつてのこと。会報に配偶者や子供さん、恋人が読んで気楽にトンネルの関連時空に身を委ねることの出来る記事があつても楽しいのではないのでしょうか。内容的には、日頃土木に関係の少ない人が興味を持って読むことの出来るトンネル世界の読み物ならどんな内容でも構いません。

例)「トンネルは何故必要なのか」、「トンネルの最長最短等のランキングを教えて」、「トンネルは昔から同じ方法で掘っていたの」、「この有名なトンネルはどうやって掘ったの」、「海底トンネルには何故海水が入ってこないの」等、どちらかと言えば閉鎖的な裏舞台で社会を支えている「トンネルの世界」を少しでも周りの皆さんに知ってもらいましょう。

以上は例ですので、これに拘らなくても皆様がテーマを設定して結構です。

担当: 前田 智之 tomoyuki.maeda@mail.penta-ocean.co.jp

【わが町・わが現場だより】

内容: 自分の現場付近や住んでいる町の観光スポット、名物料理、少し変わったトンネルや慣習等、あるいは施工中のトンネルと地域との係り、現場での自慢したい(恥ずかしい)体験談、現場運営上の工夫など何でも結構です。日頃気になっている事はざっばらんに教えて下さい。紹介する場所の地図を添えて頂くと助かります。なお、今までのコーナー「たまに行くならこんな所」を拡張して「わが街、わが現場だより」としています。

担当: 土永 直毅: tsuchinaga@mashino.co.jp

【社会貢献】

内容: 企業の社会貢献が従来よりも一層求められている時代です。会員の方々の仕事場や会社を題材に社会貢献をご紹介します。会員の方々の社会貢献であれば、自薦・他薦を問いません。例えば「〇〇工事で△△賞を受賞」、「土木の日に清掃活動ボランティアに参加」、「メセナ活動を実施」、「業務の中で CO2 削減に貢献」等を募集します。

担当: 出本 剛史: izumoto@oriconsul.com

【会員の声】

内容: 日経コンストラクションの見開きの「ねっとわーく」的記事をイメージ。今の土木業界、政治、街づくりに思うこと、内容は土木やトンネル関係に限定しません。

担当: 中戸 敬明: nakato.yoshiaki@obayashi.co.jp

【賛助会員の広告】

内容: 本コーナーは、会社の技術をPRする賛助会員専用です。

施工会社、メーカー、コンサルタント等から新技術情報や新製品情報、よく使われる自慢できる工法等を掲載するコーナーです。技術的視点からのPRを願います。法人名での投稿をお願い致します。

担当: 浅井 良倫: y-asai@katecs.co.jp

【連絡先】会報作成委員会チーム(50音順)

会報応募だけでなく、ご質問ご意見も直接メールでお寄せ下さい。

浅井 良倫	y-asai@katecs.co.jp	出本 剛史	izumoto@oriconsul.com
川端 康夫	yasuo_kawabata@tobishima.co.jp	笹尾 春夫	haruo-sasao@tekken.co.jp
土永 直毅	tsuchinaga@mashino.co.jp	中田 雅博	m.nakata.ab@c-nexco.co.jp
中戸 敬明	nakato.yoshiaki@obayashi.co.jp	日根 幸雄	hine-yu@ej-hds.co.jp
廣井 和也	hiroii@fukken.co.jp	前田 智之	tomoyuki.maeda@mail.penta-ocean.co.jp

2. 執筆にあたって：以下の点に留意されて執筆をお願い致します。

執筆要領

24.09.04

①原稿の量

記事の割付は、添付の2ページ記事、0.5ページ記事の様式により行いますので、極力このテンプレートを用いて執筆されることを希望します。なお、標準ページ数を超える場合には、最終仕上がりページ数が1ページ単位となるようご協力をお願い致します（例：標準ページ数が0.5ページの記事で0.5pを超える場合、ページ数が1pとなるよう、また1p、2p記事の場合のページ数が2p、3pページに近くの記事量をイメージ）。レイアウトが難しい場合には、作成委員会の方で行いますので、ご安心下さい。

②スタイル

- ・ pdf ファイルではレイアウト作業が出来ませんので、原稿はMicrosoft Word 2003とし、Microsoft Word 2007の場合2003版で保存して送付をお願いします。
- ・ 読者が「目を引くような表題」を原稿の頭に、また文中に「小見出し」を付けて下さい。
- ・ 図表番号はその記事の中で完結するように、図-1、表-1のように表題を付けて表示してください。原稿には写真を適切に用いて下さい。ただし掲載は白黒です。写真にも表題と写真番号を付けてください。
- ・ 顔の見える会報作成を目指し、記名投稿を基本とします。可能な限り執筆者の写真（電子ファイル）の添付もお願いします。最後に判る範囲で会員番号を記述して下さい。
- ・ 原稿全体のファイル規模にご留意の上送付をお願いします。

③執筆内容

- ・ 会員の専門分野は多岐に渡っていますので、専門用語の理解が難しい場合もあります。用語の解説など、適宜ご配慮をお願いします。
- ・ 原稿執筆は、技術者倫理等の精神に基づき執筆者の責任と良心での執筆をお願いします。編集委員会で基本的に査読は致しません。ただし、著作権に関わる事項、不適切な表現、委託受託に関わる秘密保持に反する事項、第三者に関わる内容、単純なミス等、原稿受領後に読んで気が付いた点を編集担当者より執筆者に確認させて頂く事があります。

以上